

第27回特別展 太子塚古墳を考える

圧巻! 14体以上の盾持人埴輪がまもる帆立貝形古墳



CONTENTS 目次

図録編	1 太子塚古墳の概要(横山).....	2
	2 太子塚古墳の埴輪たち(横山).....	7
報告編	太子塚古墳の調査.....	15
	1. 太子塚古墳の位置と調査の経過(田口).....	15
	(1) 和田山古墳群.....	15
	(2) 発掘調査の経過.....	15
	2. 太子塚古墳の遺構(田口).....	16
	(1) 上毛古墳群.....	16
	(2) 平面形・規模.....	16
	(3) 周堀土層と遺物の層位.....	18
	3. 埴輪出土状態の検討と埴輪配列の復元(田口).....	19
	(1) 出土状態.....	19
	(2) 埴輪平面と埴輪配列の復元.....	21
	4. 太子塚古墳の遺物.....	27
	(1) 土器(田口).....	27
	(2) 盾持人埴輪(田口).....	27
	(3) 形象埴輪(山本).....	33
	(4) 円筒・朝顔形埴輪(田口).....	57
	5. 太子塚古墳が提起する問題(田口).....	55
	写真図版.....	60
論考編	「盾持ち」人物埴輪から前方後円墳を考える 塩谷修(土浦市考古資料館).....	73
	若宮八幡北古墳の築造規格 田島桂男(日本考古学協会会員).....	81
	帆立貝形古墳と埴輪配列 日高慎(東京学芸大学).....	84

目次

- 本書は、かみつけの里博物館第27回特別展「太子塚古墳を考える」の展示解説書として編集した。
- 本特別展のテーマ設定は清水豊(本館次長)が行い、構成は横山千晶(本館学芸員)、山本ジェームズ(高崎市教育委員会文化財保護課)が行った。また、太子塚古墳の調査担当者である田口一郎氏(元高崎市文化財保護課)より指導を頂いた。諸作業にあたり、松田志保(本館学芸員)、山本ゆう子(本館臨時職員)の協力を得た。
- 本書作成の作業分担は以下のとおり。
編集・原稿執筆：横山・山本・田口(文責は目次に記す)
遺構図・遺物図：旧箕郷町教育委員会で作成。遺物図のデジタルトレースは、(有)毛野考古学研究所に委託した。
写真撮影：形象埴輪は(有)毛野考古学研究所が行い、円筒埴輪は清水が担当した。
- 太子塚古墳の調査に関わる記録類や出土遺物は、高崎市教育委員会が管理し、かみつけの里博物館で保管している。
- 本特別展の付帯事業として実施する講座発表要旨を論考編に掲載した。
- 本特別展は、以下のとおり実施される。
○会期 平成31年1月26日(土)～平成31年3月24日(日)
○会場 高崎市立かみつけの里博物館
○付帯事業(連続講座) ◇平成31年2月3日(日) 塩谷修(土浦市考古資料館)
◇平成31年3月3日(日) 田島桂男(日本考古学協会会員)
◇平成31年3月24日(日) 日高慎(東京学芸大学)
- 写真には提供者を明示した。提供者の記載のないものは、当館撮影または高崎市教育委員会の提供によるものである。
- 本文中、「帆立貝形」「帆立貝式」の用語が混在しているが、個々の執筆者の見解に基づいている。
- 本特別展開館にあたり、下記の機関より後援を頂いた。記して御礼申し上げます。(50音順敬称略)
後援 朝日新聞前橋総局・NHK前橋放送局・群馬エフエム群馬・群馬県まみうり新聞社・群馬ラジオ高崎・共同通信前橋支局・群馬テレビ報・産経新聞前橋支局・上COM群馬・時事通信前橋支局・上毛新聞社・東京新聞前橋支局・高崎観光協会・毎日新聞前橋支局・読売新聞前橋支局

ごあいさつ

太子塚古墳は、箕郷町和田山に所在する古墳で、昭和10年調査の上毛古墳総覧にもその名が記録されています。道路拡幅工事に伴い発掘調査が行われた際、質量ともに充実した埴輪が出土して注目を集めました。出土した埴輪の一部は、文化庁主催の最新出土品展「発掘された日本列島2008」に出品され、全国の皆様に見ていただきました。しかし、その他の埴輪と太子塚古墳の全容については、これまで紹介する機会がありませんでした。

この特別展では、太子塚古墳の形象埴輪のうち、全体像を復元できたものをはじめて全点展示します。また、陸奥山麓の帆立貝形古墳から出土した埴輪もあわせて展示することで、保渡田古墳群を含むこの地域と太子塚古墳の関係について考えます。小さな古墳にぎっしりと並ぶ円筒埴輪、盾持人埴輪などのすがたから、当時の人々の、古墳や、埴輪への思いを感じていただければ幸いです。

末筆ながら、この特別展にあたり、ご協力いただいた各位・諸機関に厚くお礼を申し上げます。

平成31年1月26日

かみつけの里博物館 館長 鈴木 潔



太子塚古墳出土盾持人埴輪

